

介護教育講習会・・シラバス・・フォーマット

1. 科目名 研究方法

2. 「研究方法」の学びへのご招待 << Invitation >>

①なぜその科目を学ぶことが介護教員として必要なのか

対人専門職養成の教育プログラムにおいて「研究・調査方法」は、その専門性の質を担保し、その高さが社会に認められるために重要なものです。看護師も社会福祉士もそれに対応する該当科目が存在しています。介護福祉士がその専門性の高さを社会に認められ、自信をもって業務に携わり続けるためには、介護実践について自らまたグループで調査し研究し、社会に対してその専門性の高さを証明する手法を身に着けることが重要となります。

こうした介護福祉士を養成する教育に、「調査・研究方法」の要素を入れるためには、介護教員が自ら系統・体験的に「調査・研究方法論」を身に着け、研究・調査を繰り返し行い専門的にも社会的にも認められることとなります。それは教育者のみならず研究者としての自己を示すことにつながり、教育者として、現場の重圧で道に迷いがちな学生・卒業生の理想の専門職モデルとなることができると考えます。

②ここで学ぶとどんな良いことがあるのか

従来やってきた現場における（教育指導）業務の報告や事例分析からいったん離れて、「研究」とは何か、「研究対象としての自らの介護教育や介護実践」をとらえなおすこととなります。

ひとりよがりになりがちな主観的研究観から、「研究」をその客観的説得力のある問題提起から研究の「問い」づくり、先行研究の把握、研究の目的や内容、方法の選択に至る、具体的な研究デザインの作成と論文作成の検討を体験することとなります。それによって「研究」と「研究方法」の関係と研究計画の関係までを理解できるようになります。

3. 科目担当者及び学生 担当教員：田中 千枝子

①想定している受講生のイメージ

社会福祉の社会人大学院で主に通信による院生指導を行っているので、介護教員や職員の方の受講も多くその方々のイメージがあります。

皆さん熱心で論文を書きたいと意欲的であること。しかし教育実績は自信があっても研究業績に欠ける 論文作成に自信がないという方々が多いです。

論文テーマはかなりあいまい大きすぎるか、ないしは個別的私的すぎて「研究テーマ」のピンポイントを外している、「研究」の意味から勉強する必要があるが、介護福祉研究なのか 教育研究なのか 看護研究や医学研究とどう違うか、その方向性に迷っている というイメージです。「介護福祉」の研究について、論じていければと思います。

②教員の自己紹介

大学院を出てから15年医療ソーシャルワーカーの実践経験を経て、社会福祉専門職の養成のため、大学教員になり20年近くがたちました。同時に研究者として様々な科研費や補助金をもらいながら研究プロジェクトを推進してきました。現在日本福祉大学大学院、社会福祉開発研究所所長で、スーパービジョン研究センター長です。実践家の研究を支援したい思いで通信院生および博士課程学生の指導を主に行ってきました。研究指導はもっぱら個別指導でzoomを使っておりますが、今回のように個別と集団での演習主体の授業を、すべてオン

ラインで行うことは経験がありません。博士課程の院生のファシリテーターと一緒に授業を企画しますが、トライ＆エラーで皆さんの状況を見ながら学びながら実施したいと思いません。

4. 日程及び、授業時間

- ①7月25日1日 から 11月13日
- ②授業時間（午前は午前9時30分から12時10分 午後は13時20分から16時30分）90分授業×4 10分休憩 午後のみが2回

5. 授業実施方法

Zoom での開講

6. 皆さんと教員とのコミュニケーション ー 問い合わせ・連絡先 ー

- ①受講生との連絡（レポートやコメント提出など）に使用するメールアドレス
supportkaikyoin@keishin-group.jp （事務局アドレスと同じ）
メールは日程とルールを厳守してください。

7. メイン・テーマ

介護福祉教育に関する「研究」と「調査」を学ぶ

8. キーワード

授業終了時に理解している（説明できる・その単語を使って物事を語れる）べき単語
介護福祉 研究・調査 研究の「問い」 目的 研究デザイン 調査方法 倫理的配慮

9. 目的

本科目の目的は、研究・調査手法を身に着け、客観的科学的思考による介護実践能力を持つ専門性の高い人材を養成することにある。

10. 達成課題

1. 介護福祉領域における教育に関する「研究」や「調査」の意味や意義を説明できる
2. 自分の実践を通して、研究にいたる問題提起・問い（リサーチ・クエスチョン）・研究の目的・意義、先行研究の確認 対象・方法 について、その研究デザインを説明・計画化できる。
3. 代表的な研究（調査）方法を体験的に試行してみる

11. テキスト・参考文献・教材・

- ①テキスト・・・「研究の育て方 ゴールとプロセスの見える化」 近藤克則 医学書院
- ②参考文献・・・「社会福祉・介護福祉のための質的研究法」 田中千枝子 日本福祉大学質的研究会 中央法規出版
- ③教材等・・・介護福祉関連論文（授業にて指定）。

1 2. その他教材

授業時配布資料があることがある (ファイル資料コピー禁)

1 3. 成績評価の方法・採点基準

- ①前半3回 後半3回の宿題や課題の提出
- ②2回の発表会による発表資料・内容
- 6回の宿題と提出物の提出具合と内容 最終研究計画発表会の発表内容

1 5. 毎回の授業予定と主題 & 提出課題 30 時間

学習日程は皆さんの様子で一部変更があります。

第1回目 7月25日 ①②③④

- ① 学習オリエンテーション 授業契約
- ② 参加者自己紹介 「私の研究の問題意識 どんな研究テーマを考えたいか」～について
- ③ 研究の基本 研究の育て方 教科書第1部講義
- ④ 研究の目的に「問い」リサーチ・クエスチョン(仮説)があること グループセッション
「私の研究」をつくる セルフワーク グループセッション

ホームワーク課題(2週間以内に投稿) 添削 戻し

私の研究テーマ ～について タイトル

「私の研究の『問い』」 候補 5つ以上 箇条書き

○○なのは○○なのではないか 疑問文の形

研究の問題関心(研究の意義含む) 300字以内で記述

研究の目的 問い(RQ) 作業仮説 (それを導くための先行研究を抑える方法 ⑧)

第2回目 8月29日 ⑤⑥⑦⑧

- ⑤ 良い研究とは ホームワークを振り返って
- ⑥ 新規性と実現可能性 現場研究の必要性 教科書第2章3章4章
- ⑦ 研究構想・デザイン・計画立案 第2部 教科書 講義
- ⑧ 文献収集の方法と論文構造の分析 講義とグループセッションでの相談

ホームワーク課題(2週間以内に投稿)

(先行研究を押さえるために可能な自分の方法の探索 ころづもり)

「私の研究」における研究計画書の作成

- ・論文のテーマ タイトル キーワード(3つ程度)
- ・目的 「問い」やRQ(仮説) 研究デザイン 調査法の選択
- ・調査対象 と 方法 (項目 P90 表10-1)
- ・研究倫理 倫理審査委員会等有無 代替え案

添削・指導

第3回 9月11日 午後 ⑨⑩

⑨ 研究構想発表会Ⅰ 画面共有にて 各自の計画書を提示 発表 時間設定

⑩ 研究構想発表会Ⅱ

ファシリと2Gに分割の必要あり 20名として 90分10名×7~8分程度

第4回 10月3日 ⑪⑫⑬⑭

⑪ 調査方法について	講義 教科書	配布 PPT
⑫ 調査対象・方法の選択Ⅰ 質的調査	グループ作業	
⑬ 調査対象・方法の選択Ⅱ 量的調査	グループ作業	
⑭ 私の研究における調査方法の選択と調査計画	セルフワーク	

ホームワーク課題 (2週間以内に) 添削指導

第5回 10月24日 ⑮⑯⑰⑱

⑮ 質的調査の実際		
⑯ データ収集法	インタビュー	
⑰ データ分析法	質的内容分析	
⑱ 量的調査の実際	質的調査に基づく量的調査への展開	ミックスメソッドとして

ホームワーク課題 (発表会に向けて)

「私の研究」として、実際プレ調査をやってみる。

インタビュー調査の実施

1名のナラティブの聞き取り 逐語に起こす⇒質的調査

グループによるインタビュー (フォーカスグループインタビュー)

量的調査のための選択肢ワードの抜き出し

そのうえで発表資料の作成 調査実施の報告書

調査結果までは任意

第5回 11月13日 ⑲⑳

⑲ 研究調査報告発表会Ⅰ 講評付き

⑳ 研究調査報告発表会Ⅱ 講評付き

ファシリと2Gに分割の必要あり 20名として 90分 10名×7~8分程度

難しいか

報告資料は修了後送付のこと 評価対象

16. ホームワーク

授業を受け、その時のセルフワークとディスカッションの結果を踏まえて、ホームワークとして、授業後2週間のうちに提出 それにコメントを付けて次の回までに返却予定

17. 本講におけるオンライン学習での学び方

1. メールによる情報交換・・・

此の授業では、受講生一講師間での、授業用資料の送付やレポート類の提出を、メールに添付文書して送る方法で行います。6. でお知らせしたとおり、介護教員講習会事務局と同じアドレスに送ってください。

その際、必ず「件名」に「お名前」と「敬介教2021」とご記入ください。

(このアドレスは、受講期間中、講師のみが使用するものとします。受講生同士の意見交換等は是非行っていただきたいのですが、その場合の連絡先の交換は、受講生同志で行ってください。Zoomのチャットなどをご活用ください。)

2. Zoomでの参加について

①この講座は、Zoomで参加いただいておりますが、ウェビナー方式ではなく、ミーティング方式での参加になっています。これは、「インタラクション(意見交換など)のない授業は、「授業」ではない。」という、最近のアクティブラーニングの考え方を反映しているためです。

(この詳しい内容は、授業中に触れます。) というわけですので、この授業は単に聞くだけではなく「参加」が前提です。又、受講生同志での意見交換の機会を多く設けますので、ぜひ、ともに学ぶ仲間を増やしてください。

②従って、授業中は基本的に、映像をオンにしてご参加ください。(映像が出ない場合は休憩中??)

③音声は騒音が入ってしまうと困るので、原則ミュートにしておいていただきたいのですが、状況に応じてすぐにミュート解除できる様にしておいて下さい。

④講義中に質問や意見等がある場合は、チャット機能を使って質問(意見)を送るか、発言したいという意思表示を行ってください。(ご発言いただける様、こちらから指名します。)手を挙げて連絡して下さるのも可ですが、こちらでは一人一人の画像が小さいので、見落とす場合があります。

⑤授業中に資料の共有として資料(原則として事前配布)を示す場面が、多々あります。出来るだけ、おおきな画像が見られるか、事前のプリントなどしてしまうかして、使えるようにしてご参加ください。

⑥授業を進めながら、この授業でのZoomへの参加の仕方や、守るべき内容等について、皆さんと共に、一定のルールを創っていきたいと思いますので、どんどんご提案下さい。

⑦この授業のZoomIDとパスコードなどは以下の通りです。(全回、同じ)

(事務局で記入します)

・・・以上・・・